

名古屋大学教育学部 2008年度 後期

教育方法学講義I

# - 教育方法概論 -

第 1 回 講義資料 W

担当 柴田好章 (教育方法学・准教授)

## 目指すところは？ 行く手を阻むものは？ —豊かな教育実践の構想—

### まずは、自己紹介から

柴田好章

名古屋大学教育学部教育学科→1991大学院教育学研究科博士前期課程→1993博士後期課程  
→1997上越教育大学助手→2000講師→2001名古屋大学大学院教育発達科学研究科助教授  
研究内容：授業分析、授業研究、教師教育、問題解決学習、情報教育、キャリア教育

### 次に、教育方法学研究室の紹介

本領域では、授業分析によって、教育方法の根拠となるべく授業理論を構築することを研究の中心にしている。欧米の教授学や近接領域の学習科学の成果に学びながら、現実の授業を観察・記録し、これを様々な手法によって分析することを通して、子どもの学習・発達のあり方や、それらの可能性を探っている。研究テーマは、問題解決学習、協同学習、表現活動、イメージ、コミュニケーション、環境教育、情報教育、キャリア教育、異文化理解教育、食農教育、コミュニティとしての教室、各教科の学習、教科外の学習など、多岐にわたっている。国内のみならず、海外（ドイツ、アメリカ、カナダ、中国、香港、シンガポール、イランなど）の授業も研究対象としている。さらに、授業分析の研究法論を教師教育や学校経営に適用し、各学校の授業研究の活性化と、教員相互が専門性を高め合う組織づくりに取り組んでいる。

### そして、講義全体についての説明

#### 講義概要

今日の教育上の課題と関わりながら、授業のあり方や教師のあり方を考察し、教師に必要とされる授業実践力の基礎を身につける。2回は、演習形式とし、模擬授業を計画・実施する。

#### 到達目標

- 自己の教育体験の振り返りから、豊かな教育実践を構想する
- 体験を通して学ぶことの意味を理解する
- 今日の教育課題と学習指導要領の変遷を理解し、学校教育のあり方を深く考える
- 授業のデザインにとって、重要な事項を理解する

- 模擬授業のデザインと実施を通して、基礎的实践力を身につける
- 専門家としての教師をささえる現職教育のあり方を理解する
- 教育実践と教育学研究の関わりについて理解を深める

## 教科書

日比裕・的場正美編著（1999）『授業分析の方法と課題』黎明書房

## 参考書・参考資料

佐藤学（1996）『教育方法学』岩波書店

## 成績評価方法

1. 講義への出席状況（遅刻・早退も含む）と受講態度
  2. 小レポート
  3. 期末試験
1. + 2. = 50% + 3. = 50%の総合的評価

## その他の注意

2回の演習のほかにも、講義内でグループワークを取り入れることがある。

## 講義計画 電子シラバスから若干変更

回数		主題	副題	テキスト・資料など
1	10.07	目指すところは？ 行く手を阻むものは？	—豊かな教育実践の構想—	(GW)
2	10.14	実践にとって実践学とは？	—学問的探究と実践との関わり—	(1、2、4章)
3	10.21	我が国の教育は、どこへ行くべきか？（1）	—今日の教育課題と学習指導要領—	(プリント)
4	10.28	我が国の教育は、どこへ行くべきか？（2）	—教育環境と学習指導要領の変遷—	(プリント)
5	11.04	授業者にとって大切なことは？（1）	—デザイナーとしての教師—	(プリント)
6	11.11	授業者にとって大切なことは？（2）	—教材研究—	(1,4-7,12-13章)
7	11.18	体験を通して学ぶことの意味は何か？（1）	—体験学習の事例分析—	(6章)
8	11.25	体験を通して学ぶことの意味は何か？（2）	—体験学習の意義の考察—	(6章)
9	12.02	学ぶ立場から教える立場へ(1)	—模擬授業の計画—	(GW)
10	12.09	学び合う組織としての学校とは？	—学校を基盤とする研究の意義と方法—	(9章、11章)
11	12.16	学ぶ立場から教える立場へ(2)	—模擬授業の実施—	(GW)
12	1.13	専門家としての教師の成長とは？（1）	—子どもの可能性をとらえる授業分析—	(7章)
13	1.20	専門家としての教師の成長とは？（2）	—育ち合う教師と子ども—	(7章)
14	1.27	教育学にとって教育実践とは？+試験	—授業分析の学術的意義—	(2、4、5章)

## 本日の授業の目標

- 2つの課題1を通して、自らの教育体験を振り返り、学び手の視点から、優れた授業のあり方を考える。また、理想を追求する上で、それを妨げる問題、解決しなければならない課題、解決の難しい難題を検討する。
- 以上を通して、教育方法学への問題関心の明確化をはかる。

## 本日の授業の流れ

### 課題1 自己の教育体験の振り返り

- 小学校・中学校・高等学校・大学および学校外（社会教育）において、印象に残っている学習について、挙げてください。

### 課題2 学ぶ立場からの〈授業〉のイメージマップづくり

- ワークシートの中央に、〈授業〉と書いて、丸で囲んでください。
- 〈授業とは、〇〇だ〉の、〇〇にあたる、イメージを表す言葉を、できるだけたくさん思い浮かべてください。
- 配置を工夫しながら、周りに言葉を複数、書き込んでください。それぞれ丸で囲んでください。
- 両者の中間に、どういうときか、どういう場面か、など、四角で囲んでください。

### 課題3 めざしたい授業像

- ワークシートの右上に、理想とする授業像を言葉でかく
- 左下を出発点とみなし、理想へ到達する際に、それを妨げる問題、解決しなければならない課題、解決の難しい難題、解決を支援する要因等を、種類が分かるように区別して書き入れる。（□や○、色、配置などで種類別にするとよい）

## 別紙ワークシート 3枚

	A	B	C	学校以外
小学校				
大学				



学籍番号

名前

整理番号

